

●むかし、ぐんまに「港」があった!?

川の子ども新聞



板倉町の電燈神社にある絵馬には、舟運につかわれた高瀬船や川俣河岸のようすがよく描かれているよ。



博 むかしから利根川は、船によって物を運ぶ「舟運」がさかんじゃった。
ポ むかしって、いづこ?

江戸城の石もぐんまから船で

博 むかしから利根川は、船によって物を運ぶ「舟運」がさかんじゃった。
ポ えー!? まさかあー!
博 ホントじゃよ、ホント!

春風にさわられて、利根川の河川敷までさんぼに出かけたポトムと博士。
川の流れをながめながら、お話は江戸時代へとさかのぼるのでした。

利根川博士とポトムの「川の歴史のほし」

なんと

むかし、ぐんまに「港」があった!?



■ぐんまにあったおもな河岸

博 そうじゃやな、戦国時代よりも前といわれておるから、500年くらい前ということになるかの。ただし、ぐんまにいくつも港ができるようになったのは江戸時代になってからな。

ポ どうして?
博 江戸(いまの東京)に幕府がひらかれた、たくさんの人が集まり、江戸は日本の中心になっていった。そこで、人びとが生活していくための物がたくさん必要にな



船の役割で、河岸もそのためにつかわれた。つまり、お役所のためのものだったのじゃやな。ところがだんだん商品の売り買いがさかんになって、一般の荷物も船で運ぶようになる。と、「河岸問屋」というものがあらわれたんじや。
博 それ、なあに?
ポ 倉庫や船をもつて、荷物の輸送をおこなう。いまの運送会社のような仕事をしておったんじや。ぐんまでも、このような河岸問屋がひとつの河岸に多いところ、10軒以上もあつたんじやよ。

長さ30近い船もあつた

ポ 川をゆききしていたのは、どんな船だったの? さつき、たしか「白い帆の大きな船」って言ってたけど。
博 さよう。船は「高瀬船」「ひらた船」「べか船」な

行きは「米」帰りは「塩」

ポ 荷物はどんなものが運ばれていたの?
博 前に説明したように、江戸時代のはじめのころは年貢米、それから材木、足尾銅山から出る銅など、お役所であつた荷物がぐんまから江戸へ運ばれた。そのうち、一般の商品も運ばれるよう

船の大きなものでは、幅5尺、長さは30尺近くあるものもあつたんじや。それくらいになると、お米を1200俵(72ト)も積むことができたそうじやよ。
博 すごく大きい船だね。
博 さよう。ただし、あまり大型になると、だんだん川が浅くなる上流へはさかのぼれなくなる。それで、荷物を小さい船に積みかえたりして河岸まで運んだそうじやよ。



昨年、板倉町では高瀬船を再建したんだ(もとの大きさの3分の1)

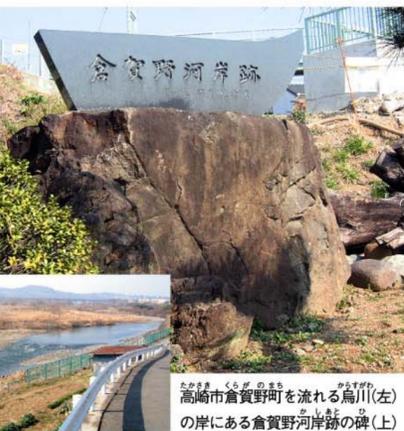
ど、いくつか種類があつたが、どれも帆をつけておつた。それはとくに江戸から川をさかのぼっていく場合、風を利用して進まなければならなかつたからじや。
ポ どのくらいの大さの船だったの?
博 大きさまさまじゃったが、たとえば高瀬



むかし福島河岸があつたところに、いまでも石垣が残っている

ぐんまに40力所も港があつた

博 船で物を運ぶためには、物を積んだり降ろしたりする場所がなければならんの。
ポ それ「港」だね。だから利根川にも港ができただね。それ、ぐんまにも!
博 そのとおりじや。ただし、川の港のことは「河岸(かし)」というんじや。だから、川の港の名前も「○○河岸」というふうによばれるんじやよ。お



高崎市倉賀野町を流れる烏川(左)の岸にある倉賀野河岸跡の碑(上)

河岸は活気あふれる「まち」

ポ 江戸時代の河岸って、どんなふうだったの?
博 そうじゃやな。江戸時代のはじめのころは年貢米(税金としてとりたてたお米)などを運ぶのが



になつたんじや。米・大豆・麻・紙・たばこ・材木などじやな。とくに、麻・紙・たばこは、ぐんまの特産品だったんじやよ。
ポ いまのは、ぐんまから江戸へ運ぶ荷物だよ。江戸からぐんまにも、荷物を運んだんじやよ?
博 さよう。江戸からぐんまへ帰るときは、塩、茶、魚などの食品、綿織物などの繊維品、小間物、瀬戸物などの雑貨品、干鰯(油をしぼつたあとのイワシやニシン)を乾燥させたものや糠などの肥料が運ばれたんじや。とくに塩は食生活にかかせない大事なものでしたんじやよ。
ポ 川が当時の人たちのくらしを支えていたんだね。
博 そうなんじや。ところが、江戸時代のおわりから明治時代になると、もうひとつ重要な荷物が加わるんじや。なんだと思う?
博 さあ?..
博 生糸じやよ。日本が外国と貿易するようになる。輸出用のぐんま特産の生糸を運ぶために、舟運もさかんになったことなんじや。



利根川に蒸気船も通つていた

博 さらに明治時代には、利根川に蒸気船が通るようになった。イギリスで起つた産業革命が日本でも始まつたわけじやな。
ポ へー、やっぱり物を運んでいたの?
博 さよう。明治10(1877)年には内国通運という会社が利根川、江戸川、渡良瀬川、鬼怒川に「第1通運丸」という蒸気船を走らせた。積み荷の安全と運賃の安さでも人気があつたそうじや。しかし、ぐんまにも明治17(1884)年に鉄道が開通すると、だんだん利根川の舟運はおとろえていった...というわけじやな。